



健康福祉センターさわやか ☎76 - 4006

●障がいの特性

広汎性発達障がい

自閉症

- ・言葉の発達の遅れ
- ・コミュニケーションの障がい
- ・対人関係・社会性の障がい
- ・パターン化した行動、こだわり



アスペルガー症候群

- ・基本的には言葉の発達の遅れはない
- ・コミュニケーションの障がい
- ・対人関係・社会性の障がい
- ・パターン化した行動、興味・関心のかたより
- ・不器用

学習障がい (LD)

「読む」「書く」「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

注意欠陥多動性障がい (ADHD)

- ・不注意（集中できない）
- ・多動・多弁（じっとしてられない）
- ・衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

※自閉症や ADHD は知的な遅れが伴う場合もあります。

発達障がいって何だろう？



の発達に関係する障がいです。

そのため、幼少期の育児がうまくいかなかったり、目には見えない障がいのため、行動や態度から「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。障がいの程度や特性は一人ひとり異なり、これらのタイプのうちどれにあたるのか、障がいの種類を明確に分けて診断することは難しく、障がいごとの特徴がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合もあります。

●早期発見・療育について

人が生きていくために必要な「社会性」は、生後9カ月頃から身についてくると言われています。発達障がいのある子供は、コミュニケーションや対人関係を築くことが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入るとさまざまな問題や困難に直面することになり、適切なサポートがされない、学校に行くことがストレスとなり、不登校や引きこもりなどの二次障がいにつながる場合もあります。

早期発見の場として、洞爺湖

町では乳幼児健診を通して、お子さんの発達を確認しています。早めに障がいに気づき、適切な療育につながることで、社会に適応する能力を身につけ、さまざまな能力を伸ばしていくことができます。もし、お子さんの発達面で気になることがありましたら、さわやかまでご相談ください。

※療育＝医療や訓練、福祉などを通じて、障がいがあっても社会に適応し自立できるように育成すること。

■開催期間 3月3日（月）～3月7日（金）

9時～17時30分

■開催場所 役場 町民ロビー

発達障がい理解促進パネル展

発達障がいの様々な特性、それらに対する支援方法やコミュニケーションの取り方などについて周知し、発達障がいへの理解を促進するため、パネル展を開催します。

この機会に、発達障がいについて、みなさんと一緒に考えてみませんか。

